

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	国語	年次	1	コース	全コース
科目名	現代の国語	履修区分	1	単位数	2
教科書（出版社）	「新編現代の国語」（東京書籍）				
副教材（出版社）	「改訂版 漢字とことば 常用漢字ワイドアルファ」（桐原書店）				
教科の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
	(1) 読む能力・書く能力 ・文章の内容や形態に応じた表現の特色を読み取ったり、要約したりすることができる。 ・論理的な文章や記録的な文章の他、随筆など情緒的な文章を書くことができる。 ・文章の段落構成を的確にとらえ、筆者の主張をつかむことができる。	(2) 話す・聞く能力 ・自分の考えを持ち、目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりできる。 ・自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。	(3) 関心・意欲・態度 ・国語を適切に表現し的確に理解しようとする。 ・伝統的な言語文化の特質などを理解しようとする。		
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	(2) 思考力, 判断力, 表現力等 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	(3) 学びに向かう力, 人間性等 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- 基本的な学習の進め方は、教科書を使いながら、適宜補助プリント等を利用し、一斉授業により理解を促します。単元・状況に応じて、「伝え合う力」を高めるため、グループワーク等も行います。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域をバランスよく伸ばすことができる活動を目指します。
- 評価は、試験の結果、授業への取り組みなどを総合的に検討し、努力と成果を見られるものにします。

2 評価

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点 評価の観点の趣旨	・相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態などに工夫して書くことができる。 ・文章の主題を的確につかむができる。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・文章の要旨をまとめ、文章の要点を把握できる。	・自分の考えを持ち、目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりできる。 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割を踏まえ、正確・わかりやすさ・敬意と親しみ等を配慮した表現や言葉遣いができる。 ・自らの考えを発表し、論ずる活動をしようとしている。 ・評論の書かれ方を理解し、読み方を知る。 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解しようとしている。	・漢字が読める・書ける。 ・提出物に取り組み期限を守って提出できる。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにできる。

評価資料	・活動状況の観察 ・提出物の確認 ・各種課題の提出状況及び内容の点検 ・定期試験	・活動状況の観察 ・確認テスト ・定期試験	・活動状況の観察 ・提出物の確認 ・読める・書ける ・授業態度及び授業への参加
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4 5 6	3	オリエンテーション、他己紹介	・聞き手を意識し、情報を整理しながら内容や構成に注意して話することができる。	(1) ア	話聞 イ	○
	5	ルリボシカミキリの青	・筆者の少年時代の体験について書かれた文章を読み、自分に当てはめて考えることができる。	(1) ウ	書 ウ	○
	5	水の東西	・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方についてできる。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握できる。	(2) イ ウ	読 ア	○
	5	分かりやすい説明をしよう	・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解できる。	(1) イ (2) オ	話聞 ア	○
	5	無彩の色	・筆者の主張する灰色についての日本文化の特色を、伝統色を確認しながら理解できる。	(1) オ (2) ア	書 イ	○
7 8 9	4	情報を整理しながら話し合おう	・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。 ・情報を集めて検討し話し合いをすることができる。	(1) エ (2) エ	話聞 オ	○
	5	鍋洗いの日々	・筆者の調理場での体験と必死の行動に注目し、その結果周囲がどのように変化したかを確認する ・筆者の「思わく」や培った経験からの自負と、筆者が勤めたホテルの調理場の現実や職場環境をまとめ、現実の厳しさを知った筆者の心情を理解できる。	(1) ア (2) エ	話聞 エ	○
	4	真夏のひしこ漁	・自然を相手にする漁師の困難さを読み取り、父と弟の息の合ったひしこ漁の様子を、順を追ってまとめることができる。 ・狙った漁場が当たり、市場へと急ぐ父の漁師としての思いや、弟の漁船に乗った筆者が感じた思いを捉えることができる。	(1) カ (3)	読 ア	○
10 11	5	憧れの職業について調べ、整理してまとめよう	・調べたことを整理して、考えたことを分かりやすくまとめる。 ・「憧れの職業」について調べ、整理してまとめるまでの例を参考に、自分の希望を人に伝えるための文章の書き方を確認する。	(1) イ (2) ア	書 ア	○
	5	新聞記事を読んで意見文を書こう	・記事の読み取りを踏まえ、根拠を明確にして意見をまとめる。 ・引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深められる。	(1) カ (2) オ	話聞 ウ	○

12	4	美しさの発見	・「発明」と「発見」に関わる語句や表現を抜き出し、ここでのそれぞれの意味を明らかにする。 ・コロンブスやキュリー夫人の「発見」と芭蕉やセザンヌの「発見」の違いを考え、それぞれの意味を明らかにできる。	(1) ウ (2) ウ	読 イ	○
1 2 3	8	読み手のアドバイスを生かして紹介文を書こう	・「自分の学校」について情報を集めて紹介文を書いた例を参考に、学習の進め方を理解できる。	(1) アオ	書 エ	○
	5	真の自立とは	・現代社会における「できる」「できない」の構造と、それが人生に及ぼしている影響について読み取り、まとめる。	(1) オ (2) エ	話聞 イ	○
	7	資料を活用して発表しよう	・調査内容をパワーポイントにまとめ伝えたいことを明確に表現できるよう、タイトルの付け方や、記事・図表の配置などを工夫する。	(1) イ	書 ア	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	国語	年次	1	コース	全コース
科目名	言語文化	履修区分	1	単位数	2
教科書（出版社）	「新編言語文化」（東京書籍）				
副教材（出版社）					
教科の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
	(1) 読む能力・書く能力 ・文章の内容や形態に応じた表現の特色を読み取ったり、要約したりすることができる。 ・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。 ・文章の段落構成を的確にとらえ、筆者の主張をつかむことができる。	(2) 話す・聞く能力 ・自分の考えを持ち、目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりできる。 ・自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。	(3) 関心・意欲・態度 ・国語を適切に表現し的確に理解しようとする。 ・伝統的な言語文化の特質などを理解しようとする。 ・言語文化に対する関心を持ち、国語を尊重してその向上を図る。		
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 知識及び技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	(2) 思考力, 判断力, 表現力等 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	(3) 学びに向かう力, 人間性等 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- 基本的な学習の進め方は、教科書を使いながら、適宜補助プリント等を利用し、一斉授業により理解を促します。単元・状況に応じて、「伝え合う力」を高めるため、グループワーク等も行います。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域をバランスよく伸ばすことができる活動を目指します。
- 評価は、試験の結果、授業への取り組みなどを総合的に検討し、努力と成果を見られるものにします。

2 評価

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点 評価の観点の趣旨	・詩歌や随筆など情緒的な文章の拝啓を掴むことができる。 ・文章の主題を的確につかむができる。 ・「読むこと」において、文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。 ・文章の展開を押さえ、場面構成を把握できる。	・話し言葉と書き言葉の特徴や役割を踏まえ、正確・わかりやすさ・敬意と親しみ等を配慮した表現や言葉遣いができる。 ・自らの考えを発表し、論ずる活動をしようとしている。 ・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。	・歴史的仮名遣いが読める・書ける。 ・提出物に取り組み期限を守って提出できる。 ・言語文化に対する関心を持ち、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。
評価資料	・活動状況の観察 ・提出物の確認 ・各種課題の提出状況及び内容の点検 ・定期試験	・活動状況の観察 ・確認テスト ・定期試験	・活動状況の観察 ・提出物の確認 ・読める・書ける ・授業態度及び授業への参加

観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4 5 6	6	さくらさくらさくら	- 物語に出てくる言葉を深く味わうことができる。 - 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	(1) イエ	読(近) ア	○
	6	古文に親しむ	- 古文と現代文の違いについて確認する。 - 古文の代表作品の冒頭を音読する。 - 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解できる。	(1) ア (2) イ	読(古) エ	○
	8	児のそら寝	- 本文を音読し、歴史的仮名遣いに慣れる。 - 児の気持ちの変化を整理し、最後の描写の意味について考える。 - 現代語訳する際の注意点を理解する。	(2) ウ	読(古) イ	○
	10	羅生門	- さまざまなレトリックの特徴と効果について理解を深める。 - 主な文学賞など、近現代文学に関する基本的な知識を持ち、古典文学を基にした作品に理解を深める。	(1) イエ	読(近) オ	○
7 8 9	6	漢文入門 訓読の基本 格言 再読文字	- 漢文を学ぶ意義を理解する。 - 漢文訓読の決まりを理解する。 - 漢文に親しみ、漢文の表現に慣れる。 - 熟語の構造、漢語の由来について理解する。 - 漢語の成り立ちや、変遷について理解を深め、日本文化と中国文化との関係について興味関心を広げる。	(2) イウ	読(古) ア	○
	4	守株	- 故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。 - 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	(1) ウ (2) エ	読(古) ウ	○
	6	伊勢物語	- 歌物語に描かれている内容を的確に捉えようとしている。 - 作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。	(1) ア (2) イ	読(古) ウ	○
10 11 12	4	折々の歌	『万葉集』について、概略を理解する。 『古今和歌集』について、概略を理解する。 『新古今和歌集』について、概略を理解する。 『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』における詠みぶりの違いを考える。 『梁塵秘抄』『閑吟集』について、概略を理解する。	(1) オ (2) オ	読(古) イ	○
	5	和歌を自分の言葉で書き換える	進んでコミュニケーションツールとしての和歌の役割について理解し、学習課題に沿って和歌を書き換えようとしている。	(2) アカ	書 ア	○

1 2 3	6	百人一首大会	・百人一首を覚える。 ・百人一首の競技ができる。 ・取り札が取れる。	(1) ウオ	読(古) エ	○
	4	絶句と律詩	・それぞれの詩の詩形と押韻がわかる。 ・それぞれの詩を音読し，書き下す。 ・それぞれの詩の詩形と押韻および対句がわかる。 ・それぞれどのような心情がうたわれているかを考える。	(2) アウ	読(古) オ	○
	5	詩歌作成	・詩歌を創作し、作品をお互いに鑑賞しよう。	(2) エカ	書 イ	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	公民	年次	1	コース	共通
科目名	公共	履修区分	必修	単位数	2
教科書（出版社）	「 高等学校 公共 」(帝国書院)				
副教材（出版社）	「 高等学校 公共ノート 」(帝国書院)				
教科の目標	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	(2) 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	(3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。		
	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
科目の目標	(1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。				
	(2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	(3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。			

1 学習の進め方と留意点

- (1) 授業の進め方
- ・現代社会をとらえる視点や枠組み、基本的な概念の理解を図る。
 - ・一斉授業、グループ学習、発表などの学習活動を行い、ものごとを多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を養う。
 - ・資料から適切な情報を選択し、課題を追究する活動、レポートにまとめたり発表したりする活動などを行い、課題追究の方法を身に付ける。
- (2) 学習に当たって
- ・日頃からメディアで報道される時事的な課題に関心を持ち、調べたりすることで論点や疑問を持つことに努める。
 - ・客観的な資料に基づいて、諸課題を考察し、解決のあり方を模索する態度を身に付ける。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりしている。	・よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決図っている。 ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行っている。また、粘り強い取り組みを行い、自らの学習を調整しようとしている。
評価資料	・定期考査の点数 ・小テスト等の点数 ・ワークシート等への完成度	・定期考査の点数 ・テスト等の点数 ・ワークシート等への記述 ・観察(学習状況、討論・発表など) ・学習の振り返り	・定期考査の点数 ・ワークシート等の記述内容 ・観察(学習状況、討論・発表など) ・学習の振り返り
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を $1:1:1$ で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態

4	6	第1部 私たちがつくる社会 第1章 社会の中の私たち 第1節 青年期と社会参画 1 私たちの生きる現代社会 2 青年期について考えよう 3 悩むことについて考えよう 4 ジェンダーについて考えよう 5 学ぶことについて考えよう 6 社会参画とキャリアについて考えよう	私たちが生きる現代社会の特質について理解を深めさせる。 ・現代という時代の特質を捉える。 ・青年期という時代の特徴を理解し、課題や悩みへの向き合い方を考える。 ・学びの定義や重要性を考える。 ・良好で豊かな人間関係を構築するために必要なことについて考え、男女共同参画社会や両性の本質的平等について思考・判断し、自らの意見や主張を表現する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
5	8	第2節 宗教・思想・伝統文化と社会 1 宗教について考えよう 2 日本の思想について考えよう 3 日本の伝統と文化について考えよう 第2章 思想から学ぶべきもの 第1節 倫理的な見方・考え方 1 よく生きる～古代ギリシャ思想 2 人とは何か～古代中国思想 3 動機と結果～近代西洋思想 4 公正と正義～現代の思想	宗教や思想、文化の伝統と多様化について理解を深めさせる。 ・宗教の意義と宗教が人々の生活にもたらすものについて考える。 ・日本の思想の特異性について理解する。 ・日本特有の文化や伝統について最低限の知識を身に付け、日常生活に見られる慣習を理解する。 人とはどのような存在であるかを考えさせる。 ・先哲の思想を現代的な事柄から考察し、理解する。 ・日本の思想に影響を与えた古代中国の思想を現代的な事柄から考察し、理解する。 ・西洋思想の考え方を東洋思想と比較検討し、理解する。 ・他者と共に生きる社会に必要なことを考える。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
6	8	第3章 私たちの社会の基本原則 第1節 社会の基本原則と憲法の考え方 1 近代立憲主義の原則 2 近代立憲主義の広がり 3 日本国憲法 4 平等に生きる権利 5 自由に生きる権利① 6 自由に生きる権利② 7 人間らしく生きる権利 8 広がる人権の考え方	近代立憲主義の基本的な理解を踏まえ、近代憲法を構成する諸原則に関する知識を身に付け、国民としての資質を高める。 ・立憲主義の原則の背景を理解する。 ・近代市民革命から自由国家および福祉国家の成立と民主主義の確立に関する歴史的過程を理解する。 ・日本国憲法の基本原則の背景を理解する。 ・平等権と差別に関する基本的な知識を理解する。 ・自由権の基本的構造を理解する。 ・実社会で自由権がどのように活かされているか考察する。 ・社会権の基本的構造を理解する。また、国務請求権や参政権、国民の義務と公共の福祉について理解する。 ・社会の変化と人権意識の高まりに関する基本的な理解を踏まえ、世界の人権問題について理解する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
7	4	9 人権保障の国際的な広がり 第2部 社会のしくみと諸課題 第1章 私たちと法 第1節 法の意義と司法参加 1 社会規範と法 2 私たちの生活と法 3 契約の考え方	・これからの国際社会に進展と国際的な人権問題の特徴を捉え、国際社会に生きる力を身に付け、自らの意見や主張を表現する。 社会規範について考えさせ、道徳観や倫理観の醸成を図る。 ・適正な法について理解し、身の回りのルールのある方を考える。 ・他者や国家権力による人権侵害に対する基本的な考え方に法への役割を理解し、自らの意見や主張を表現する。 ・所有権や契約に関する基本的な理解を踏まえ、契約の成立や解除などの技能を身に付ける。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
8	4	4 消費者の権利と責任 5 司法の役割 6 刑事裁判とその課題	・消費者問題発生の原因について考えさせ、消費者保護の考え方を理解させる。 ・司法権の位置づけや三審制、裁判員制度などの基本的知識を理解する。司法権の基本的な考え方や違憲審査についても理解する。 ・刑事裁判における刑事手続と人権保障、国民の司法参加の在り方について考察する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
9	8	第2章 私たちと政治 第1節 民主社会と政治参加 1 政治と権力	政治的関心を高め、政治的な思考や社会参加を可能にする。 ・政治の定義や法の支配の原理を活用して、代表民主制、国民主権の考え方を理解する。	○	○	○

		2 議院内閣制と国会 3 権力分立と行政の役割 4 地方自治の役割 5 政党政治とメディア 6 選挙制度とその課題	・議院内閣制のしくみを、国民(主権者)、国会、内閣、それぞれの視点から特徴を捉え、国会のしくみと課題について意見する。 ・行政権のしくみについて理解し、民主主義を適切に成立させることの大切さと意義を理解する。 ・地方自治の本旨について理解し、積極的に政治参加する資質を養う。また、地方自治の課題を指摘し、その対策を考察できる。 ・政党政治の目的と課題、メディアの役割を理解する。 ・国民による政治参加の手段を確認し、選挙や投票についての関心を高めし、主権者として意見や主張を表現する。	○	○	○
10	8	第2節 国際政治の動向と平和の追求 1 国家と国際法 2 日本の主権と領土 3 平和主義と日本の防衛策 4 これからの日本の安全保障 5 国際連合の役割と活動 6 紛争とテロリズム 7 核兵器と軍縮の課題 8 国際協力と日本の役割	国際社会における国家の主権を理解した上で、国家がもつ主権について多面的・多角的に考察する力を身に付ける。 ・国家間の関係について、主権をテーマにそのあり方を考える。 ・国際法における領有権の定義を理解し、日本の領土に係る歴史的経緯と固有領土について正しく理解する。 ・平和主義の考え方を正しく解釈し、国際社会の情勢の変化の中で日本の防衛について自ら考察する。 ・日本の安全と平和について国際社会の中で日本が実現しようとして外交の動向について考察するために必要な知識を身に付ける。 ・国際連合の目的と役割について、機能していることや改善しなければいけないことを指摘し、自らの意見や主張を表現する。 ・紛争やテロが生じる原因について考察させ、事態が複雑な様相を呈していることを理解する。 ・軍縮をどのように進めることが可能なかを検討し、思考実験を通して気付きや解決策を考察・構想する。 ・国家政策による国際協力以外に政策や民間組織の施策、予算、人手、受け入れ国の理解と協力をどのように進めるか考察する。	○	○	○
11	8	第3章 私たちと経済 第1節 市場経済のしくみ 1 経済とその考え方 2 市場のメリットと限界 3 企業の目的と役割 4 金融の役割 5 政府の役割と財政の機能 6 日本の財政の課題 7 経済の変動	経済が国家や市民を動かす力であることを理解させる。 ・経済主体と経済循環など、市場経済の基本的な考え方や知識を身に付ける。 ・市場経済のメリットとその限界について社会的視点から理解する。 ・企業の目的やしくみ、その活動と社会的責任について考察する。 ・金融の役割について理解する。 ・財政が果たす役割とその機能について理解する。 ・財政や税制に関する理解に基づき、歳入と歳出、租税の種類のしくみのあり方を考察する。 ・景気変動から生じる現象を踏まえ、持続的な経済成長を図るために必要なことについて自ら意見する。	○	○	○
12	4	第2節 豊かな社会の実現 1 産業構造の変化と職業選択 2 中小企業と農業 3 労働者の権利 4 雇用と労働に関する課題	豊かさとは何か。豊かさは何をもちたすかを考えさせる。 ・AIの進化や産業構造の変化について考察する。 ・中小企業や農業に関する基本的理解と、その現状、課題を考察する。 ・労働者の権利や労働をめぐる諸問題を考察し、意見する。 ・産業構造や労働環境の変化を踏まえ、働き方について考察する。	○	○	○
1	4	第3節 国際経済の動向と格差の是正 1 国際経済のしくみ 2 国際経済の枠組み 3 地域経済統合	南北問題の原因と課題を高い視点から考察し、共栄の社会を考える。 ・国際分業や貿易形態、為替や国際収支などの基本事項を理解する。 ・国際経済史を踏まえ、国際経済のルールのあり方を考察する。 ・地域経済統合の目的と課題について考察する。	○	○	○
2	4	4 グローバル化と自由貿易 5 国際経済の変化と課題 6 経済格差の是正	・グローバル化が国内産業に与える影響を多面的・多角的に考察できる。 ・新興国の台頭や近年の国際経済の動向に関する基本的な理解に基づき、国際経済の変化と課題について考察するために必要な知識を身に付ける。 ・国際経済における経済格差と貧困に関する基本的な理解に基づき南北問題の発生の原因、格差の是正、先進国の発展途上国に対する支援と現状と課題について考察できる。	○	○	○

3	4	第3部 持続可能な社会の実現に向けて 課題探究学習の手引き	社会全体の幸せの共有化を図るために、私たちはその問題にどう向き合うかを考察する。 課題に対して、これまでの学習で身に付けた知識を活用し、自らの関心に基づいて、より学習を深める。 課題に関する統計や図表等の情報を整理し、それに基づき自ら考え判断したことを整理して、レポート等の形で表現する。 課題に関連した統計や図表の収集・読み取りを通じて、主張を裏付ける説得力のある根拠を示す。	○	○	○
---	---	----------------------------------	--	---	---	---

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	数 学	年 次	1	コース	共通
科目名	数 学 I	履修区分	必修（習熟度）	単位数	3
教科書（出版社）	「新編 数学 I」（数研出版）				
副教材（出版社）	「3TRIAL I +A」（数研出版）				
教科の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1)数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(2)数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	(3)数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1)数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		

1 学習の進め方と留意点

(1) 習熟度授業

到達度テストや入試の点数等を参考に、各クラスを基礎と標準に2展開し、少人数による授業を行います。考査は8割が共通問題、2割はコース別とします。

a.基礎コース

扱う内容を絞り込むことで時間を掛けて丁寧に進めます。その分高い評価はとりにくくなります。

b.標準コース

様々な進路に対応できるよう、教科書の内容を全て扱います。授業は標準的なスピードで進みます。

(2) 家庭学習

「わかる」と「できる」は同じではありません。「わかる」ために授業をフル活用し、「できる」ようになるために家庭学習（授業時間外の学習）を習慣にしてください。問題集、スタディサプリ等に繰り返し取り組みましょう。

2 評 価

評価の観点	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主体的に学習に取り組む 態 度
評価の観点の趣旨	・数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価資料	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述状況 ・宿題・課題等の提出状況 ・振り返りシート
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を1 : 1 : 1で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	10	1 章 数と式 1 節 式の計算 1 整式 2 整式の加法・減法・乗法 3 因数分解 2 節 実数 1 実数 2 根号を含む式の計算	式についての用語を理解し、いろいろな見方ができる。 指数法則、乗法公式等、基本的な計算ができる。置き換え等で能率よく式の展開ができる。 公式を身につけ、基本的な方法で因数分解できる。	○ ○ ○		○ ○ ○
		3 節 1 次不等式 1 不等式の性質 2 1 次不等式 3 1 次不等式の応用 2 章 集合と論証 1 節 集合 1 集合 2 節 命題と論証 1 命題と条件 【前期中間考査】	大小関係を不等式で表せる。基本性質を理解する。 不等式の解の意味を理解し、1 次不等式が解ける。 文章題、連立 1 次不等式を解ける。 集合の用語を理解し、記号を適切に使える。 命題の用語を包含関係と関連づけて理解する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
6	20	2 論証 3 章 2 次関数 1 節 2 次関数とそのグラフ 1 関数 2 2 次関数 3 2 次関数の最大・最小 4 2 次関数の決定 2 節 2 次方程式と 2 次不等式 1 2 次方程式 2 2 次方程式の実数解の個数	逆、裏、対偶を理解し、証明法を習得する。 関数の概念を理解し、記号 $y=f(x)$ を自由に使える。 2 次関数について理解する。平方完成ができる。 2 次関数の最大値や最小値を求めることができる。 与えられた条件から 2 次関数を決定できる。 因数分解や解の公式を用いて 2 次方程式が解ける。 実数解の個数と判別式の関係を理解する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
		3 2 次関数のグラフと x 軸の共有点 4 2 次不等式 5 2 次不等式の応用 4 章 図形と計量 1 節 鋭角の三角比 1 直角三角形と三角比	グラフと x 軸の共有点と判別式の関係を理解する。 グラフと x 軸の関係を理解して 2 次不等式が解ける。 連立 2 次不等式、文章題が解ける。 意味を理解し、30、45、60 度の三角比を求められる。	○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○
8	10	2 直角三角形の辺と角 3 三角比の相互関係 2 節 三角比の拡張 1 三角比と座標 2 三角比の性質 【前期期末考査】	三角比を用いて辺の長さや角を求めることができる。 相互関係について興味をもち、理解する。 鈍角や 0、90、180 度まで拡張した定義を理解する。 相互関係について理解を深め、活用できる。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
		3 節 三角形への応用 1 正弦定理 2 余弦定理 3 三角形の面積 4 空間図形の計量	正弦定理を理解し、活用できる。 余弦定理を理解し、活用できる。 正弦・余弦定理を活用し三角形の面積を求められる。 三角比を空間図形の計量に応用できる。	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○

10	20	5章 データの分析 1節 データの整理と分析 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばり 2節 データの相関 1 相関関係 2 相関係数 課題学習	データを整理することのよさを認識し、適切に表せる。 代表値の有用性を認識し、理解する。 箱ひげ図でデータの分布を視覚的にとらえられる。 散らばりを表す数値を理解し、それらを求められる。 2変量の散布図をつくり、相関をとらえる。 相関係数を理解しそれを用いて相関をとらえる。 数学Ⅰで学習した内容と関連する身近な課題について主体的に学習し、数学のよさを認識する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
11		【後期中間考査】		○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	数 学	年 次	1	コース	共通
科目名	数 学 A	履修区分	必修（習熟度）	単位数	2
教科書（出版社）	「新編 数学 A」（数研出版）				
副教材（出版社）	「3TRIAL I +A」（数研出版）				
教科の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1)数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したリ、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(2)数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	(3)数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1)図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したリ、数学的に解釈したり、数学的に表現したりする技能を身に付けるようにする	(2)図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。	(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		

1 学習の進め方と留意点

(1) 習熟度授業

到達度テストや入試の点数等を参考に、各クラスを基礎と標準に2展開し、少人数による授業を行います。考査は8割が共通問題、2割はコース別とします。

a.基礎コース

扱う内容を絞り込むことで時間を掛けて丁寧に進めます。その分高い評価はとりにくくなります。

b.標準コース

様々な進路に対応できるよう、教科書の内容を全て扱います。授業は標準的なスピードで進みます。

(2) 家庭学習

「わかる」と「できる」は同じではありません。「わかる」ために授業をフル活用し、「できる」ようになるために家庭学習（授業時間外の学習）を習慣にしてください。問題集、スタディサプリ等に繰り返し取り組みましょう。

2 評 価

評価の観点	知 識・技能	思 考・判断・表現	主体的に学習に取り組む 態 度
評価の観点の趣旨	・図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見いだし、その性質について論理的に考察したり説明したりする力、コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察する力、事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察する力、確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察する力、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値意思決定に活用したりする力を養う。	(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価資料	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述状況 ・宿題・課題等の提出状況 ・振り返りシート
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
11	20	1 章 場合の数と確率 1 節 場合の数 1 集合の要素の個数 2 場合の数	和集合の要素の個数を求めることができる。 樹形図や表を利用し場合の数を求めることができる。	○ ○		○ ○
		3 順列 4 組合せ 2 節 確率 1 事象と確率	nPr や階乗の計算ができる。また、円順列や重複順列など、いろいろな順列の計算ができる。 nCr を求め、組合せの考えを応用することができる。 確率の意味を知り、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識する。	○ ○	○ ○	 ○
12	15	2 確率の基本性質 3 独立な試行と確率 4 条件付き確率 5 期待値	確率の基本性質等を学び、確率を求めることができる。 独立な試行の確率の意味を理解する。反復試行の確率を理解する。 条件付き確率と乗法定理の学習を通して、事象を数学的に考察し、処理する力を伸ばす。 期待値の意味を理解する。	○ ○ ○	○ ○ 	 ○
1	10	2 章 図形の性質 1 節 平面図形 1 三角形の辺の比 2 三角形の外心・内心・重心 3 チェバの定理・メネラウスの定理	三角形と比の定理と、中点連結定理を復習し、三角形の内角・外角の二等分線と比を理解する。 三角形の重心・外心・内心と外接円、内接円との関係を理解する。 チェバの定理、メネラウスの定理を理解し、いろいろな辺の長さや比を求めることができる。	○ ○ ○	○ ○	
2	15	4 円に内接する四角形 5 円と直線 6 2つの円 7 作図 【後期期末考査】	円周角の定理等が成り立つことを理解する。 円に内接する四角形の定理等を理解して図形に対する見方を豊かにする。 円と接線に関する基本的な性質を応用して、直角三角形の内接円の半径を求めることができる。 接線と弦のつくる角の定理の証明をさまざまな方法で考えることができる。 円と点の位置関係が異なっても方べきの定理が成り立つことを理解する。 2つの円の位置関係を理解し、そこに現れる図形の性質を利用して線分の長さを求めることができる。 線分の内分点・外分点などを作図できる。 2数の積や商及び平方根などを作図で表現できる。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○
3	10	2 節 空間図形 1 直線と平面 2 空間図形と多面体	中学校で学習した直線や平面の位置関係を踏まえ、図形の性質を論理的に考察することができる。 空間において直線と平面が垂直になる場合について考察するとともに、三垂線の定理を理解する。 多面体の基本的な性質を理解する。	○ ○ ○	○ ○ 	○ ○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	理科	年次	1	コース	共通
科目名	化学基礎	履修区分	必修	単位数	2
教科書（出版社）	「新編化学基礎」（東京書籍）				
副教材（出版社）	「ニューアチーブ化学基礎」（東京書籍）				
教科の目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す				
	(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
科目の目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	(3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

(1) 実験・観察

各単元において適宜、実験・観察を行います。操作に対する説明を理解し、安全に実習に取り組みましょう。また、目的意識を持って実験・観察に取り組み、科学的に探究することの基礎を学びましょう。

(2) 身につけるべき知識とその活用

物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究する力を身につける。学習した知識を基に、化学と日常生活や社会との関わりを考えることができるように努める。

(3) 家庭学習

授業の予習・復習を行い、学習内容を定着できるように努めましょう。ワークブックや教科書の問題、授業プリントを用いた学習に繰り返し取り組みましょう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、化学に関する知識を総合的に身に付けている。 ・自然の事物・現象に関する観察、実験を行い、実験器具を正しく取り扱うとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、様々な事象を科学的に探究する技術を身に付けている。	・自然の事物・現象の中に課題を見だし、解決を目指して思考を深め、科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 ・自然の事物・現象について、化学に関する知識を基に、説明する力を養う。	・自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、化学的性質だけでなく、利用法について考えようとする態度を身に付けている。 ・命題について科学的な根拠を持って答える力や科学的な視点を持ち考える力を養う
評価資料	・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の得点 ・定期考査の得点	・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の得点 ・定期考査の得点	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の提出状況や期日 ・確認テスト等の得点
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	4	1 編 化学と人間生活 1 章 化学とは何か 化学とは何か	・2 種類の物質を区別する方法を考え、実際に分離する。 ・物質には性質があり、私たちはそれを利用して生活していることを理解する。 ・私たちの生活は、化学に密接に関連していること知る。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
5	6	1 編 化学と人間生活 2 章 物質の成分と構成元素 1 節 物質の成分	・純物質と混合物の性質を理解する。 ・混合物から成分となる物質を分離する方法があり、それは物質の性質によるものであることを理解する。 ・混合物に含まれる成分を、その性質の違いによって分離	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○

		・純物質と混合物 2 節 物質の構成元素 ・元素 ・単体と化合物 ・元素の確認 [前期中間考査]	する方法を選択できる。 ・物質は元素からつくられていることに気づく。 ・純物質は、単体と化合物に分類されることを理解する。 また、いくつかの元素には同素体があることを知る。 ・元素の確認方法（炎色反応や沈殿の生成）を理解する。	○		○
6	6	3 節 物質の三態 ・粒子の熱運動 ・物質の三態と状態変化 2 編 物質の構成 1 章 原子の構成と元素の周期表 1 節 原子の構造 ・原子 ・同位体	・物質には三態があり、それぞれの状態のとき、物質を構成する粒子がどのように運動しているか推察し、理解する。 ・物理変化と化学変化、状態変化の違いを理解する。 ・物質を構成する粒子が原子であることに気づく。 ・原子の構造から陽子、中性子、電子の性質を理解する。 ・原子番号は、原子に含まれる陽子の数であることを知る。 ・質量数が陽子の数と中性子の数であることや、同じ原子であっても質量数の異なるものがあることを理解する。	○		○
7	6	2 節 電子配置と周期表 ・原子の電子配置 ・元素の周期表 2 編 物質の構成 2 章 化学結合 1 節 イオンとイオン結合 ・イオンの生成 ・イオン化エネルギー ・イオン結合とイオン結晶	・電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。 ・貴ガスの性質を電子配置と関連付けて理解する。 ・電子配置は原子番号順に変化することを理解する。 ・アルカリ金属としてのナトリウムの性質を知る。 ・身のまわりの物質は原子やイオンがどのような結びつきでできているかを考える。 ・電子配置からイオンの生成及び結合の形成を理解する。 ・イオンからなる物質の組成式およびイオン結晶の性質を理解する。またそれらが身近に使われている用途を知る。	○		○
8	4	2 節 分子と共有結合 ・共有結合と分子の形成 ・高分子化合物 ・配位結合 ・電気陰性度と分子の極性 ・分子間力と分子結晶 ・共有結合の結晶 [前期期末考査]	・共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 ・身近な高分子化合物の構造について知る。 ・分子の融点、沸点、水への溶解性から構成原子の電気陰性度が影響していることに気づく。結合の極性を知り、極性分子と無極性分子について理解する。 ・分子の性質と溶解性の違いを確認する。 ・分子結晶の性質、共有結合の結晶の性質の違いを比較しながら理解する。	○		○
9	6	3 節 金属と金属結合 ・金属結合 4 節 化学結合と物質の分類 ・化学結合と性質の分類 3 編 物質の変化 1 章 物質と化学反応式 1 節 原子量・分子量・式量 ・原子の相対質量 ・原子量・分子量・式量	・自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。 ・結合の種類から物質の性質について分類し考察する。 ・周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える ・原子 1 個の質量は極めて小さいため、原子の相対質量とは基準として決められたある原子の質量との比較で求めた相対質量であることを知る。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。	○	○	○
10	8	2 節 物質質量 ・アボガドロ数と物質質量 ・1 mol の気体の体積 3 節 溶液の濃度 ・溶液の濃度 4 節 化学反応の表し方 ・化学反応式・イオン反応式 5 節 化学反応の表す量的関係 ・化学反応の表す量的関係	・粒子の数に基づく量の表現が物質質量であることを知る。 ・物質質量とその単位の関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係を理解する。 ・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを考える。 ・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。 ・化学反応式の係数が表している量的関係を考える。 ・化学変化に伴う質量変化に注目し化学の基本法則を知る。	○		○
11	8	3 編 物質の変化 2 章 酸と塩基 1 節 酸と塩基 ・酸と塩基の性質 ・酸と塩基の定義 ・広い意味の酸・塩基 ・酸と塩基の価数	・酸と塩基の性質について理解し、実験を通して確認する。 ・アレニウスの酸・塩基の定義を理解する。 ・ブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義を理解する。 ・酸と塩基の価数を理解し、電離度を比較して酸と塩基の強弱の違いを考察する。 ・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。	○	○	○

		2 節 水素イオン濃度と pH ・水素イオン濃度 ・水素イオン濃度と pH ・pH 指示薬と pH の測定 3 節 中和反応と塩の生成 ・中和反応と塩の生成 ・塩の種類	・pH 指示薬と変色域により、水溶液の pH が測定できることを知る。 ・実験観察を通して、身近な物質の pH や希釈した水溶液の pH の変化を比較し考える。 ・酸と塩基が完全に中和するときの変化を理解する。 ・実験観察を通し、塩の水溶液の pH を測定する。その塩をつくるもとになった酸、塩基の強弱を比較して考察する。	○		○
12	6	[後期中間考査] 4 節 中和滴定 ・中和滴定の量的関係 ・中和滴定 ・滴定曲線 3 編 物質の変化 3 章 酸化還元反応 1 節 酸化と還元 ・酸化と還元 ・酸化数と酸化還元反応	・中和の条件は、酸から生じる H^+ の物質と塩基から生じる OH^- の物質が等しくなることだとわかる。 ・中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。 ・酸化と還元は常に同時に起こることを知る。 ・酸素原子や水素原子が関係していない反応についても、酸化・還元が電子の授受によって説明できる。 ・反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元を確認できることを理解する。	○		○
1	6	2 節 酸化剤と還元剤 ・酸化剤と還元剤 ・電子の授受と酸化還元反応式 ・酸化剤と還元剤のはたらきの強さ ・酸化還元滴定	・代表的な酸化剤、還元剤としては、過マンガン酸カリウムや過酸化水素、ヨウ化カリウムであることを知る。 ・酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関係を理解する。 ・実験観察を通して酸化剤としてはたらく物質は、より強い酸化剤との反応では還元剤となることを知る。	○		○
2	6	3 節 金属の酸化還元反応 ・金属のイオン化傾向 ・金属の反応性 4 節 酸化還元反応の応用 ・電池の仕組み ・実用電池 ・金属の製錬 [後期期末考査]	・金属と空気、水、酸などの反応性の違いは、金属のイオン化傾向と深い関係があることを理解する。 ・実験観察を通して、金属のイオン化傾向と電流の流れる向きを比較し関係性を考える。 ・ダニエル電池のしくみを理解する。 ・身近に使われている実用電池の構造、用途や特徴を知る。 ・金属の製錬には酸化還元反応が関わっていることを知る。	○		○
3	4	3 編 物質の変化 終章 化学が拓く世界	・化学基礎で学んできたことが日常生活や社会生活を支えている科学技術と結びついていることを理解する。		○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	理科	年次	1 年	コース	普通
科目名	生物基礎	履修区分	必須	単位数	2 単位
教科書（出版社）	「 新編 生物基礎 」(東京書籍)				
副教材（出版社）	「 新課程 レッツトライノート 生物基礎 」(東京書籍)				
教科の目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
科目の目標	・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。				

1 学習の進め方と留意点

(1) 実験・観察
各単元において適宜、実験・観察を行います。操作に対する説明を理解し、安全に実習に取り組みましょう。また、目的意識を持って実験・観察に取り組み、科学的に探求することの基礎を学びましょう。
(2) 身につけるべき知識とその活用
物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究する力を身につける。学習した知識を基に、化学と日常生活や社会との関わりを考えることができるように努める。
(3) 家庭学習
授業の予習・復習を行い、学習内容を定着できるように努めましょう。ワークブックや教科書の問題、授業プリントを用いた学習に繰り返し取り組みましょう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・動物・植物について、基本的な概念や知識を理解し、生物に関する知識を総合的に身に付けている。 ・動物・植物に関する観察、実験を行い、実験器具を正しく取り扱うとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、様々な事象を科学的に探究する技術を身に付けている。	・生物と生態系の中に課題を見だし、解決を目指して思考を深め、科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 ・生物と生態系について、生物に関する知識を基に、説明する力を養う。	・生物に関心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、生物の性質だけでなく、利用法について考えようとする態度を身に付けている。 ・命題について科学的な根拠を持って答える力や科学的な視点を持ち考える力を養う。
評価資料	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の提出状況 ・確認テスト等の点数 ・振り返りシート等
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を $1:1:1$ で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	5	1 編 生物の特徴				
		1 章 生物の多様性と共通性	・地球上にすむ生物の種数が膨大であることに気づき、地球上に多様な種がみられるのはなぜか考える。	○		○
		1 節 生物の多様性	・脊椎動物の四肢の有無、呼吸の仕方、殖え方などの特徴について考え、表 1 にまとめる。	○	○	○
		実習 1 脊椎動物の特徴の比較	・図 1 の系統樹上でそれらの特徴が現れた位置を推測し、進化との関係性を見いだす。	○		○
		A 生物の世界の見方	・地球上で生活する生物の多様性は、進化の結果生じたものであることを理解する。	○	○	○
		B 進化の証拠	・共通祖先から由来した生物は共通の特徴をもつことを理解する。	○		○

5	8	5月中テスト 2節 生物の共通性 実習 2 さまざまな生物の顕微鏡観察とDNAの抽出 A 生物の特徴	・生物と非生物の違いが何かを考えることを通して、生物と非生物を分ける基準が存在することに気づく。 ・顕微鏡を用いた微生物や動物、植物などの観察結果を比較し、生物のもつ共通性について考察する。また、それらの生物のDNAを抽出し、生物がDNAをもつという共通性があることについて考察する。 ・光学顕微鏡の各部の名称とはたらきについて理解する。 ・顕微鏡を用いてヒト口腔上皮、タマネギの表皮、ヨーグルトの乳酸菌を観察し、スケッチを行う。 ・ヒト口腔上皮、タマネギ、乳酸菌のDNAを抽出し、生物がDNAをもつという共通性があることについて考察する。 ・生物のもつ基本的な特徴を理解する。	○	○	○
6	8	★★前期中間考査★★ 3節 細胞の特徴 A 真核細胞の構造 やってみよう 動物細胞と植物細胞に共通する細胞小器官 B 原核細胞の構造 C 細胞の共通性と多様性 まとめてみよう 生物の共通性と多様性を図で整理 <発展>電子顕微鏡で明らかにした細胞の構造 <コラム>ウイルスは生物か	・すべての生物のもつDNAが細胞のどこにあるかを考える。 ・真核細胞の構造について理解する。 ・動物細胞と植物細胞に共通する細胞小器官を挙げる。 ・原核細胞の構造について理解する。 ・真核細胞と原核細胞の構造を学習し、細胞の共通性と違いについて理解する。 ・電子顕微鏡で観察できる細胞の構造について理解を深める。 ・ウイルスが非生物と考えられている理由を知る。	○	○	○
7	4	7月中テスト 1節 生体とATP A 生命活動とエネルギー B ATPの構造 <コラム>ATPで衛生管理 C 代謝	・ATPが呼吸や光合成など生体内で、エネルギーの受け渡しに必ず関係していることを理解する。 ・ATPが、アデニン、リボース、リン酸が結合した物質であることを理解する。 ・ATPのリン酸どうしの結合にエネルギーが蓄えられていることを理解する。 ・生物が、同化によってエネルギーを蓄え、異化によってエネルギーをとり出していることを理解する。 ・同化や異化の代謝の過程で、生じるエネルギーの受け渡しにATPが利用されていることを理解する。	○	○	○
8	4	夏休み課題確認テスト 2節 酵素のはたらき 実習 3 酵素のはたらき やってみよう 生のパイナップルと缶詰のパイナップルでみられる酵素のはたらきの違い A 酵素 やってみよう 私たちの体ではたらく酵素 やってみよう 酵素の基質特異性 <発展>酵素の性質	・生のパイナップルを用いて、寒天のゼリーとゼラチンのゼリーがどのように変化するかを観察し、ゼラチンと寒天の主成分の違いから、パイナップルに含まれる酵素の性質を考察する。 ・酵素の基本的な特徴を理解する。 ・私たちの体ではたらく酵素にはどのようなものがあるのか調べる。 ・酵素の基質特異性について調べ、報告書を作成する。 ・酵素の主成分がタンパク質であることから、最適温度と最適pHという性質が生じることを知る。	○	○	○

9	8	★★前期期末考査 3 節 呼吸と光合成 A 呼吸 <発展>ミトコンドリアの構造とはたらき B 光合成 まとめてみよう 代謝を図で整理 <発展>葉緑体の構造とはたらき <発展>細胞内共生説	・呼吸におけるグルコースの分解反応について理解する。 ・呼吸と燃焼の違いを理解する。 ・呼吸の場であるミトコンドリアの構造について理解を深める。 ・ミトコンドリアでは、解糖系、電子伝達系、クエン酸回路の 3 つの過程を経て呼吸反応が進行することについて理解を深める。 ・真核細胞内では、光合成は葉緑体で行われ、原核細胞では細胞質基質で行われることを理解する。 ・光合成の場である葉緑体の構造について理解する。 ・光合成が、チラコイドで行われる反応とストロマで行われる反応からなることを理解する。 ・細胞内共生説について理解を深める。	○	○	○
10	8	中テスト 1 節 生物と遺伝子 A 遺伝情報と形質 B DNA と染色体 C ゲノム やってみよう ゲノムの英単語の由来 <発展>ゲノムプロジェクトとオーダーメイド医療	・親の形質が子に引き継がれることを遺伝といい、遺伝は遺伝情報である DNA によって担われていることを理解する。 ・真核生物では、DNA が染色体の成分として存在することを理解する。 ・生命の維持に必要な 1 組の DNA をゲノムといい、真核生物の細胞には両親に由来する 2 組のゲノムが含まれることを理解する。 ・相同染色体とは何かを理解する。 ・ゲノムの解読方法の進歩により、個人のゲノムを利用した医療などが可能になりつつあることについて理解を深める。	○	○	○
11	8	2 節 DNA の構造 実習 4 DNA 模型の作製 A 塩基の相補性 B DNA の構造 C 塩基の並び方 やってみよう シャルガフの結果について話し合うやってみよう 塩基の比率を計算する <コラム>DNA の構造を探った科学者たち	・遺伝情報にはさまざまな形質に対応する情報が含まれ、父母の双方からの形質が別々に伝わることで、同じ生物の間でもわずかな形質の違いが生じることを理解する。 ・真核生物では、DNA が染色体の成分として存在することを理解する。 ・生命の維持に必要な 1 組の DNA をゲノムといい、真核生物の細胞には両親に由来する 2 組のゲノムが含まれることを理解する。 ・相同染色体とは何かを理解する。 ・ゲノムの解読方法の進歩により、個人のゲノムを利用した医療などが可能になりつつあることについて理解を深める。	○	○	○
12	5	2 節 神経系による情報伝達 実習 7 運動の前後の体の変化 A 神経系 B 自律神経系による調節 やってみよう 緊張とリラックスについて考える やってみよう 日常生活とのつながりを話し合う C 脳の構造とはたらき まとめてみよう 神経系を図で整理 <コラム>脳死について	・体内環境の維持と自律神経系による調節を関連づけて理解する。 ・日常の場面から交感神経と副交感神経の作用について考え、説明する。 ・日常の場面から交感神経と副交感神経の作用について考える。 ・脳の構造とおもなはたらきについて知る。 ・脳死をめぐる見解について、さまざまな立場の人の意見を調べ、自分の考えを深める。	○	○	○

1	3	3 節 内分泌系による情報伝達 A ホルモンによる調節 B ホルモンの分泌量の調節 まとめてみよう 内分泌系を図で整理	・日常のコミュニケーション手段の例から、情報伝達には特徴に合わせたさまざまな種類があることに気づく。 ・内分泌腺と分泌されるホルモン、その作用について知り、ホルモンが受容されるしくみを理解する。 ・間脳の視床下部がホルモン分泌の中核として機能することを理解する。 ・ホルモンの分泌量がフィードバックによって調節されていることを理解する。 ・ここまでに学習した用語を使って、内分泌系を図で整理する。	○	○	○
2	5	4 節 血糖濃度の調節 実習 8 血糖濃度の調節 A 血糖濃度を調節するしくみ まとめてみよう 血糖濃度の調節のしくみを図で整理 B 糖尿病とは やってみよう 患者数の推移と生活様式の変化を考える <コラム>体温の調節 特集 人体図鑑	・血糖濃度の調節機構による体内環境の維持とホルモンの関係について見いだして理解する。 ・血糖濃度の調節にかかわるホルモンの種類と、それぞれのはたらきについて理解する。 ・ここまでに学習した用語を使って、血糖濃度の調節のしくみを図で整理する。 ・インスリンの作用と糖尿病の関係について理解する。 ・人体のおもな器官について、整理して理解する。	○	○	○
3	4	1 節 免疫のしくみ A 体を守るしくみ 資料の読み取り 好中球のはたらきの観察 B 自然免疫 C 適応免疫 D 血液凝固 特集 免疫のしくみ	・白血球の一種である好中球の食作用の資料から異物を除去する機構について気付く。・自然免疫について分類や特性を理解する。 ・適応免疫を支えるリンパ球の種類と役割を理解する。 ・体内環境の維持の観点から血液凝固について理解する。 ・免疫のしくみについて俯瞰的に整理して理解する。	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	保健体育		年次	1	コース	共通
科目名	体育		履修区分	必修	単位数	2
教科書（出版社）	「現代高等保健体育 保体701」（大修館）					
副教材（出版社）	「現代高等保健体育ノート」（大修館）					
教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを目指す。					
	(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	(2) 運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	(3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
	(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			

1 学習の進め方と留意点

- (1) 男女別及び共習の形式で実施する。その際、体力や運動技能の差を鑑みて、多角的な評価をする。
- (2) 互いの違いを受け入れて、協働的・積極的に取り組むこと。
- (3) ルールやマナーを大切にすること。
- (4) 健康・安全に留意して活動すること。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	- 運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項について理解している。 - 各種運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付けている。 - 各技能の名称や実践の仕方を理解している。 - ルールを理解している。	- 自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決をしようとしている。 - 自己や仲間の課題に応じた取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫し、考えたことを他者に伝えている。	- 授業にふさわしい身だしなみをしている。 - 健康・安全に留意して活動している。 - 運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。 - 公正に取り組む、互いに協力している（準備・後片付け含む）。 - 互いの良さや一人一人の違いを大切にしようとしている。
評価資料	- 活動状況の観察 - 単元テスト等の記述内容 - 技能テスト等の点数 - 種目の特性の理解 - ルールやマナーの理解	- 活動状況の観察 - 単元テスト等の記述内容 - 技能テスト等の点数 - 合理的・計画的に取り組む姿勢 - 課題を把握し、工夫して取り組む姿勢 - 自己や仲間の考えたことを他者に伝える姿勢	- 活動状況の観察 - 単元テスト等の記述状況 - ふさわしい服装 - 健康・安全を意識した取り組み方 - 自主的・計画的な取り組み方 - 仲間との関わりとその協力する態度
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (79%～40%) C(40%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (79%～40%) C(40%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (79%～40%) C(40%以下)とする

評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を <u>1:1:1</u> で集約し、5 (80%以上)、4 (80%未満～60%)、3 (60%未満～40%)、2 (40%未満～30%)、1 (30%未満) の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。
-----------------------------	---

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4 5	8	・オリエンテーション ・体育理論 ・体づくり運動 (集団行動) (体力テスト)	・年間計画と授業の目標について確認する。 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、豊かなスポーツライフの設計のしかたについて学ぶ。 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わう。 ・仲間と積極的に交流する。 ・個々のねらいに応じ、健康に生活するために運動をおこなうための体力を身につける。 ・集団行動の行動様式を理解する。 ・正しい測定の方法を学ぶ。 ・仲間と協力し、主体的に行動する。 ・道具を正しく使用し、安全にも留意する。 ・自己の体力を理解し、課題を発見する。	○	○	○
5 6	8	・体育理論・単元テスト ・(男女共習) ○陸上競技 短距離走 跳躍競技 投てき競技	・単元の定着度、理解度を深める。 ・安全に留意し、仲間と協力し合いながら取り組む。 ・記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わう。 ・各種目特有の技能を身につける。	○	○	○
6 7 8	15	・体育理論・単元テスト ・(男子) ○サッカー ・(女子) ○バレーボール ・ダンス	・単元の定着度、理解度を深める。 ・安全に留意し、仲間と協力し合いながら取り組む。 ・自己の目標を持ち、個人の能力を最大限に発揮できるよう自己の動作を理解する。 ・各種目の基本技能を身につけ、ミニゲームや試合を展開できるようになる。 ・感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わう。	○	○	○
9 10	13	・体育理論・単元テスト ・(男子) ○バスケットボール ・(女子) ○サッカー	・単元の定着度、理解度を深める。 ・安全に留意し、仲間と協力し合いながら取り組む。 ・自己の目標を持ち、個人の能力を最大限に発揮できるよう自己の動作を理解する。 ・各種目の基本技能を身につけ、ミニゲームや試合を展開できるようになる。	○	○	○
10 11 12	13	・体育理論・単元テスト ・(男子) ○バレーボール ・(女子) ○バスケットボール	・単元の定着度、理解度を深める。 ・安全に留意し、仲間と協力し合いながら取り組む。 ・自己の目標を持ち、個人の能力を最大限に発揮できるよう自己の動作を理解する。 ・各種目の基本技能を身につけ、ミニゲームや試合を展開できるようになる。	○	○	○
1 2 3	13	・体育理論 ・(男女共習) ○スキー・スノーボード ※スノーボードを選択する場合は条件を満たせば可能	・単元の定着度、理解度を深める。 ・十勝の雄大な自然の中で、ウインタースポーツに親しみ、生涯スポーツの基礎資質を養う。	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	保健体育	年次	1	コース	共通
科目名	保健	履修区分	必修	単位数	1
教科書（出版社）	「現代高等保健体育 保体701」（大修館）				
副教材（出版社）	「現代高等保健体育ノート」（大修館）				
教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを目指す。				
	(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	(2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	(3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。		
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) 教科書と保健ノートを使用しながら授業を行います。
- (2) 必要に応じて、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し、学習効果を高めるよう授業を行います。
- (3) 教材の内容と身近な健康や安全に関することを関連させながら理解を深めたり、思考・判断する機会を作ります。
- (4) グループワークなどを通して、自分が考えたことや仲間が考えたことを他者に伝える機会を作ります。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	- 健康を保持増進するための課題の解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること、及び環境を改善していくための基礎的な事項について理解したことを言ったり書いたりしている。 〈内容〉 1 単元 現代社会と健康 2 単元 安全な社会生活 3 単元 生涯を通じる健康 4 単元 健康を支える環境づくり	- 現代社会と健康、また生涯を通じる健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、表現している。 - 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、表現している。 - 健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断ができるとともに表現している。	健康を保持増進するためには、自らの健康を適切に管理すること、及び環境を改善していくことが重要であることに関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
評価資料	- 活動状況の観察 - ワークシート等の記述内容 - 各種課題等の記述内容 - 確認テスト等の点数 - 定期考査の点数	- 活動状況の観察 - ワークシート等の記述内容 - 各種課題等の記述内容 - 確認テスト等の点数 - 定期考査の点数	- 活動状況の観察 - ワークシート等の記述状況 - 各種課題等の提出状況 - 授業用具の準備（忘れ物）
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (79%～40%) C(40%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (79%～40%) C(40%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (79%～40%) C(40%以下)とする

評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (80%～60%未満)、3 (60%～40%未満)、2 (40%～30%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。
-----------------------------	---

3 年間授業計画

月	時数	学習内容 (カッコ数字は各単元予定時数)	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	2	オリエンテーション(1) 1-01 健康の考え方と成り立ち(1)	・ 年間の授業内容と評価について説明 ・ 健康を成り立たせている要因について理解する。	○	○	○
5	4	1-02 私たちの健康のすがた(1) 2-03 交通における安全(1) 1-03 生活習慣病の予防と回復(1) 1-04 がんの原因と予防(1)	・ わが国の現在の健康問題について例をあげて説明できる。 ・ 交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について理解する。 ・ 生活習慣病の種類と要因について理解し説明できる。 ・ がんの種類や原因、一次・二次予防について理解する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
6	4	1-05 がんの治療と回復(1) 1-09 喫煙と健康(2) 1-10 飲酒と健康(2)	・ がんの治療法や緩和ケア、社会的対策について説明できる。 ・ 喫煙が周囲の人に起こす害、喫煙対策について個人と社会に分けて例をあげて説明できる。 ・ 飲酒の健康への短期的・長期的な影響、健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげて説明できる。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
7	2	1-15 現代の感染症(1)	・ 感染症とは何かについて潜伏期間や感染力等について理解する。	○	○	○
8	2	1-16 感染症の予防(2)	・ 感染症の予防対策について例をあげて説明できる。	○	○	○
9	4	1-17 性感染症・エイズとその予防(2) 【前期期末考査】(1) 【考査返却】(1)	・ 性感染症・エイズが他の感染症と異なる点について理解し個人と社会に分けて対策例をあげて説明できる。	○ ○	○ ○	○ ○
10	4	3-01 ライフステージと健康(1) 3-02 思春期と健康(2) 3-03 性意識と性行動の選択(1)	・ ライフステージと健康の関連について理解する。 ・ 思春期の体の変化、心の発達に関わって起こる問題について理解し説明できる。 ・ 性意識の男女差について例をあげて説明できる。性情報が性行動の選択に影響を及ぼす例をあげることができる。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
11	4	3-04 妊娠・出産と健康(2) 3-05 避妊法と人工妊娠中絶(2)	・ 妊娠・出産の過程における健康問題、活用できるサービスについて理解する。 ・ 家族計画の意義、適切な避妊法、人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について理解し説明できる。	○ ○	○ ○	○ ○
12	3	2-04 応急手当の意義とその基本(1) 2-05 日常的な応急手当(2)	・ 応急手当の意義について理解する。 ・ 日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について理解する。	○ ○	○ ○	○ ○
1	2	2-06 心肺蘇生法(2)	・ 心肺蘇生法の方法と手順について理解する。	○	○	○
2	2	【後期期末考査】(1) 【考査返却】(1)		○	○	○
3	2	まとめの授業①(1) まとめの授業②(1)	・ 1 年間の授業を振り返り、自ら興味関心を抱いた分野についてレポートを作成する。	○ ○	○ ○	○ ○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	芸術（音楽）	年次	1	コース	共通
科目名	音楽Ⅰ	履修区分	必修	単位数	2
教科書（出版社）	「 高校生の音楽1 」（教育芸術社）				
副教材（出版社）					
教科の目標	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。	(2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。	(3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。		
科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) 授業について
- ・音楽の授業では「練習」、「演奏・発表」、「意見交換」、「創作活動」等、様々な活動に取り組みます。それぞれの場面に合わせた態度で臨みましょう。
 - ・楽譜やプリントを配布します。無くさないようファイル等に保管しましょう。
- (2) 音楽を形づくっている要素
- ・音楽の授業では「音色」、「リズム」、「速度」、「旋律」、「テクスチュア」、「強弱」、「形式」、「構成」を中心に知覚と感受を大切にしています。音楽の要素を感じながら聴きましょう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	・音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価資料	・筆記テスト ・実技テスト	・鑑賞感想シート ・表現工夫シート ・実技テスト	・活動記録 ・振り返りシート ・観察
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を1：1：1で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	4	歌唱【校歌】	知識・技能を得たり生かしたりしながら、自分のイメージをもって表現を創意工夫する。 曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを感じ取り、理解して表現する 強弱や発想記号等を音楽の要素に関わらせ理解する。	○ ○	○ ○	○ ○
5	6	器楽 【リズムアンサンブル】	知識・技能を得たり生かしたりしながら、自分のイメージをもって表現を創意工夫する。 曲想とクラッピングや各楽器の音色や奏法との関わりを感じ取り理解して表現する。 楽典を学習し、読譜の能力を身に付ける。	○ ○	○ ○	○ ○
6	8	創作 【リズムアンサンブル】	知識や技能を生かして、自己のイメージをもって表現を創意工夫する。 反復、変化などの手法を活用して音楽を作る技能を身に付ける。 創作活動をととして、記譜の能力を身に付ける。	○ ○	○ ○	○ ○
7	6	鑑賞 【日本の伝統音楽】	楽曲や演奏に対する評価とその根拠についてよく考え、よさや美しさを自ら味わって聴く。 音楽表現の共通性や固有性について考え、よさや美しさを自ら味わって聴く。 伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解する。	○ ○	○ ○	○ ○
8	4	歌唱 【2重唱（日本歌曲）】	曲想と歌詞、曲の成り立ち等との関わりを理解し、表現創意工夫する。 各表現形態の特徴を理解し、表現を創意工夫する。 各表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付ける。 日本語の特徴と曲種に応じた発声との関わりを理解し、表現を創意工夫する。	○ ○	○ ○	○ ○
9	6			○ ○	○ ○	○ ○
10	8	鑑賞 【映像と音楽】	映像と音楽の関わりに対する音楽の要素を考え、よさを自ら味わって聴く。 音色や音の重なりやそれらの関連を知覚し、それらの働きを感じ取りながら知覚したことと感じ取ったこととの関わりについて考える。	○ ○	○ ○	○ ○
11	8	器楽 【リコーダー】	知識・技能を得たり生かしたりしながら、自分のイメージをもって表現を創意工夫する。 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わりを理解し、表現を創意工夫する。 ソロやアンサンブルによる特徴を理解し、表現する。 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。	○ ○	○ ○	○ ○
12	6	鑑賞 【ミュージカル】	楽曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、よさや美しさを自ら味わって聴く。 音楽の要素と曲の成り立ち、ほかの芸術との関わり等を理解し、よさや美しさを自ら味わって聴く。	○ ○	○ ○	○ ○
1	4	歌唱 【合唱】	自分のイメージをもって表現を創意工夫する。 合唱の表現の特徴を理解し、表現を創意工夫する。 全体の響きを感じ取り、他者との調和を意識して歌う技能を身に付ける。	○ ○	○ ○	○ ○
2	6			○ ○	○ ○	○ ○
3	4					

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教 科 名	英語コミュニケーションⅠ	年 次	1年次	コース	習熟度別
科 目 名	英語コミュニケーションⅠ	履修区分	必修	単位数	4
教科書（出版社）	「All Aboard! English CommunicationⅠ」（東京書籍）				
副教材（出版社）	「コーパス 1800」（東京書籍） 「Listening Pilot level1」（東京書籍）				
教科の目標	英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成する。				
	(1)必要な情報を聞いたり、読んだりして話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じてとらえたりすることが出来る。	(2)基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。	(3)基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝えることが出来る。		
科目の目標	英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につける。				
	(1)必要な情報を聞いたり、読んだりして話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じてとらえたりすることが出来る。	(2)基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。	(3)基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝えることが出来る。		

1 学習の進め方と留意点

(1) 習熟度授業
到達度テストや入試の点数等を参考に、各クラスを基礎と標準に2展開し、少人数による授業を行います。考査は8割が共通問題、2割はコース別とします。
a.基礎コース
扱う内容を絞り込むことで時間を掛けて丁寧に進めます。その分高い評価はとりにくくなります。
b.標準コース
様々な進路に対応できるよう、教科書の内容を全て扱います。授業は標準的なスピードで進みます。
(2) 家庭学習
「わかる」と「できる」は同じではありません。「わかる」ために授業をフル活用し、「できる」ようになるために家庭学習(授業時間外の学習)を習慣にしてください。復習、スタディサプリ等に繰り返し取り組みましょう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・文法の知識を理解している。 ・文法の知識を使って相手に伝える技能を身につけている。	・本文の内容に関して出てきた表現を活用しながら自分の考えをまとめ、相手の意見も聞くことができる。 ・自分の考えや感情を正確に相手に伝わるように書いたり話したりすることが出来る。	・文章や対話の要点を捉えようとしている ・スピーキング、ライティング、リーディング等の活動を通して積極的にコミュニケーションをとろうとしている。
評価資料	・それぞれの活動の評価 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・それぞれの活動の評価 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・それぞれの活動の評価 ・ワークシート等の記述状況 ・宿題・課題等の提出状況 ・振り返りシート
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(83%以上) B(82%～51%) C(50%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A(83%以上) B(82%～51%) C(50%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A(83%以上) B(82%～51%) C(50%以下)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を4:3:3で集約し、5(90%以上)、4(80%～90%未満)、3(50%～80%未満)、2(40%～50%未満)、1(40%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	1	Warm-Up 1 アルファベット	〔題材内容〕 身近な日常生活の中にある英語の単語を書き、発音を確認する。 〔言語活動〕 英語のアルファベットを使って単語を正確に書き、発音する。	○	○	○
	1	Warm-Up 2 教室で使う表現	〔題材内容〕 授業における典型的な場面でよく使われる英語表現を学習する。 〔言語活動〕 授業における典型的な場面でよく使われる英語表現を理解し、実際に使ってみる。	○	○	○
	1	Warm-Up 3 辞書の使い方／疑問詞	〔題材内容〕 辞書の使い方と役に立つ用語について学習する。また、疑問詞のある疑問文と答え方を学習する。 〔言語活動〕 辞書を使って単語を調べてみる。また、疑問詞のある疑問文と答え方を学習する。	○	○	○
	1	Pre-Lesson 1 My Name Is Ito Neko	〔言語材料〕 be 動詞	○	○	○
	1	Pre-Lesson 2 I Like Junk Food!	〔言語材料〕 一般動詞	○	○	○
	2	Communication 1 自己紹介	〔言語活動〕 自己紹介をする。	○	○	○
5	3	英文のしくみ 1	〔言語材料〕 主語＋動詞、主語＋動詞＋補語、主語＋動詞＋目的語	○	○	○
	8	Lesson 1 Breakfast around the World 私の朝ごはん	〔題材内容〕 世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習する。 〔言語材料〕 過去形 〔言語活動〕 好きな食べ物について、英語で述べることができる。	○	○	○
6	前期中間考査			○		
	8	Lesson 2 Australia's Cute Quokkas 人なつっこい野生動物	〔題材内容〕 オーストラリアの珍しい野生動物クオッカと観光のルールについて学習する。 〔言語材料〕 進行形：〈be 動詞＋動詞の-ing 形〉 〔言語活動〕 好きな動物について、英語で述べることができる。	○	○	○
	3	文法のまとめ 1	〔言語材料〕 be 動詞と一般動詞／否定文と疑問文 / 過去形／進行形	○	○	○
7	8	Lesson 3 A Train Driver in Sanriku 笑顔を運ぶ列車	〔題材内容〕 被災地を運行する列車運転士のスピーチを通して、職業の意義について考える。 〔言語材料〕 助動詞：can, will 〔言語活動〕 ある場所への行き方とそこでできることについて、英語で述べる ことができる。	○	○	○

	2	Communication 2 道案内	〔言語活動〕 道案内の場面においてよく使われる表現を用いて、英語で道案内をしたり、道順を尋ねたりする。	○	○	○
8	1	Let's Listen 1 デートの約束	〔言語活動〕 友達をサッカーの試合観戦に誘う場面における対話を聞き、概要を理解し、メモを完成させる。	○	○	○
	8	Lesson 4 A Miracle Mirror 夢のような絶景	〔題材内容〕 海外の観光地について書かれたメールを通して、その魅力について学習する。 〔言語材料〕 to 不定詞：〈to＋動詞の原形〉 〔言語活動〕 行ってみたい場所について、英語で述べることができる。 〔言語活動〕 英語で E メールを書いてみる。	○	○	○
9	前期期末考査			○		
	8	Lesson 5 Learning from the Sea 長浜高校水族館部	〔題材内容〕 高校のユニークな部活動を通して、今好きなことと将来の夢について考える。 〔言語材料〕 動名詞：〈動詞の-ing 形〉 〔言語活動〕 将来の夢について、英語で述べることができる。	○	○	○
	1	Let's Listen 2 フリーマーケットで買い物	〔言語活動〕 フリーマーケットで買い物をする場面における対話を聞き、概要を理解し、よく使われる表現を聞き取る。	○	○	○
	2	英文のしくみ 2	〔言語材料〕 主語＋動詞＋目的語＋目的語	○	○	○
10	2	文法のまとめ 2	〔言語材料〕 助動詞／to 不定詞／動名詞／接続詞	○	○	○
	2	Extra Target 2 ○○が・・・するのを見た	〔言語材料〕 知覚動詞 〔言語活動〕 最近見たり聞いたりしたことについて表現する。	○	○	○
	8	Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period 奇想天外な浮世絵師	〔題材内容〕 江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。 〔言語材料〕 受け身：〈be 動詞＋過去分詞〉 〔言語活動〕 好きな絵について、英語で述べることができる。	○	○	○
11	8	Lesson 7 A Diary of Hope アンネ・フランク	〔題材内容〕 アンネ・フランクの生活と日記について紹介する授業を通して、生きることの意味について考える。 〔言語材料〕 比較表現：〈-er〉〈the -est〉〈as＋原級＋as〉 〔言語活動〕 関心のある人物について、英語で説明することができる。	○	○	○
	後期中間考査			○		
12	8	Lesson 8 A Door to a New Life ロボットカフェ	〔題材内容〕 ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、ロボットの可能性について考える。 〔言語材料〕 現在完了形：〈have[has]＋過去分詞〉	○	○	○

			[言語活動] 人の生活を豊かにするロボットについて考え、英語で提案することができる。			
	2	Communication 3 乗り換え案内	[言語活動] 電車の乗り換え案内の場面においてよく使われる表現を用いて、英語で尋ねたり案内したりする。	○	○	○
1	2	英文のしくみ 3	[言語材料] 主語＋動詞＋目的語＋補語	○	○	○
	6	Lesson 9 Fighting Plastic Pollution 海の豊かさを守る	[題材内容] プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動を学習する。 [言語材料] 名詞を後ろから説明する分詞 [言語活動] 環境を守るためにできることについて、英語で述べることができる。	○	○	○
2	8	Lesson 10 Pigs from across the Sea 海の向こうからの贈り物	[題材内容] 第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や、両地域の現在の交流について学習する。 [言語材料] 関係代名詞：who, which [言語活動] 海外の文化や社会に対する理解を深める活動について、英語で述べるができる。	○	○	○
	後期期末考査			○		
3	2	Extra Target 3 もし私が○○なら…	[言語材料] 仮定法過去：〈If＋過去形の文, I would〉 [言語活動] 「もし○○なら…」と想像して、しようと思うこと・できることについて、ペアになって対話をする。			
	2	文法のまとめ 4	[言語材料] 名詞を後ろから説明する分詞／関係詞／句読法			

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	家庭	年次	1	コース	共通
科目名	家庭基礎	履修区分	必修	単位数	2
教科書（出版社）	「家庭基礎 自立・共生・創造」（東京書籍）				
副教材（出版社）	なし				
教科の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを旨とする。				
	(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題学習した知識や技術を活用し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。	(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) ノートを用意して下さい。適宜プリントを配布し授業を進めます。
- (2) 板書以外にも自分自身で大事だと思うことはどんどんメモして下さい。たくさんの情報を得るために、早く字を書くこと、頭の中で内容をまとめながら書き記す訓練も必要です。
- (3) 授業は皆さんが主役です。自分の意見をしっかり持ち、仲間の意見には耳を傾け、主体的に取り組みましょう。
被服実習では裁縫道具を使用します（実習の一月前に詳しく指示します）。安全と衛生に気をつけ、仲間と協力して気持ちよく行えるようにしましょう。
- (4) テレビや新聞などのニュースに関心を持つこと。他教科での学習や、様々な生活体験で身につけた知識や技術を使って授業を進めます。家庭科と関係のないできごとはありません。ニュースに関心を持ちましょう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者と福祉、衣生活と環境などに知識と技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者と福祉、衣生活と環境などについて、その充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者と福祉、衣生活と環境などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。
評価資料	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各課題の記述内容 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各課題の記述内容と工夫 ・定期考査の点数 ・実習時の身だしなみ・必要物品の用意	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各課題の記述内容 ・実習時の身だしなみ・必要物品の用意
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	1	オリエンテーション	○学習内容や学習方法・評価についての説明 ○SDGs の取り組みについての説明	○家庭科の学習活動を知る。 ○家庭科分野ごとに、持続可能な社会を目指す視点を持つことの大切さを知る。		○ ○
5	8	1章 生活を見通す 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる 2章 人生をつくる 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生	○今までの自分を客観的に振り返る ○18歳青年時代の自立について ○生涯発達とは	○自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 ○生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。 ○生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。	○ ○	○ ○ ○

		活と社会	○ライフスタイルの多様性や課題 ○よりよい家庭生活を実現するために ☆新聞記事を用いる ☆SDGs との関連 ☆前期中間考査	○家族・家庭と私たちの生活の結びつきを理解する。 ○誰もが家庭や地域のよりよい生活を想像できるにはどのような社会を実現すればよいか、考えて実践しようとする。	○			○		
6	10	4 章 超高齢社会を共に生きる 1 超高齢・大衆長寿社会の到来 2 高齢者の心身の特徴 3 これからの超高齢社会 5 章 共に生き、共に支える 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる	○超高齢社会とは ○自立とは何か ○加齢に伴う心身の変化 ○社会的包摂の考え方 ☆SDGs との関連 ☆高齢者と触れ合う ☆居住市町村の制度や支援体制を調べる ☆介護技術の工夫	○超高齢社会の背景を理解する ○誰もが生涯を通して自分の力を生かしかつ生きがいを持ち、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、どのような支援が必要か考える。 ○加齢に伴う心身の変化と生き方・尊厳について理解を深める。 ○高齢期を支える社会の仕組みや課題、私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。	○	○	○	○	○	○
7	5	8 章 住生活をつくる 1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活	○ライフステージに応じた住生活の特徴 ○安全や環境に配慮した住宅の機能 ○住居の計画・管理 ☆住宅広告から読み取れること ☆SDGs との関連	○生涯を見通した住生活について考える、住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 ○快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。 ○気候や風土、時代の変化によって異なるさまざまな住文化について理解する。 ○持続可能な住居や地域のコミュニティづくりについて理解する。	○	○		○	○	○
8	5	9 章 経済生活を営む 1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 4 これからの経済生活	○現代の消費決定における意思決定の重要性と情報の活用について ○消費者の権利と責任 ○実生活の家計の収支 ○リスク管理と生活設計 ☆SDGs との関連 ☆一般的なライフコースに関わる費用を試算 ☆前期期末考査	○責任ある消費行動がとれるよう、さまざまな契約の重要性について理解する。 ○消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、消費者市民社会の実現について考え、実践しようとする。 ○経済的自立の重要性や障害を見通した働き方について理解する。 ○国際経済のつながりについて理解し、家計をマネジメントする力をつける。	○		○	○	○	○
9 10 11	15	7 章 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 衣生活の文化と知恵 5 これからの衣生活 10 章 持続可能な生活を営む 1 持続可能な社会を目指して	○被服の役割 ○被服の材料、性能、加工 ○日本や世界の民族衣装 ○衣服の環境負荷 ○ユニバーサルデザイン ☆三角巾を製作(襷がけ・まつりぬい・千鳥がけ・半返しぬいの基礎縫い)	○被服の社会的・文化的背景と機能や特徴、役割について理解する。 ○被服について科学的に理解し、実践できる力を身につける。 ○現代に受け継がれる異文化の工夫を受け継げるようにする、 ○資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。 ○共生社会の実現に向けて工夫する。	○		○	○	○	○

			技術と品質表示ラベル作成) ☆繊維製品に関わる労働条件と労働環境 ☆単元小テスト			
12 1	10	3 章子どもと共に育つ 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境	○性と生殖に関する健康 ○子どもの発達課題 ○現代の子育て環境の変化や課題 ○子どもを取り巻く社会環境 ☆乳幼児や保育者と触れ合う ☆SDGs との関連	○大人や社会の責任について考える。 ○子どもの能力や心身の発達、生活習慣や衣食住について理解する。 ○子育てを支援していくために、何を実践すればよいか、考えて実践しようとする。 ○子どもが健やかに育つ社会とは何か考える。	○	○ ○ ○
2	8	6 章 食生活をつくる 1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品 3 食生活の選択と安全 4 生活の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎 6 食生活の文化と知恵 7 これからの食生活	○食生活の課題や食事の意義、食環境の変化 ○栄養素の種類と機能、食品の栄養的特質や調理性について ○食品衛生 ○健康に良い、バランスの良い食事とは ○持続可能な食生活とは ☆SDGs との関連 ☆調理実習(2時間×3回) ☆後期期末考査	○食生活の自立に必要な知識と技術を身につける。 ○世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。 ○食生活の問題点を見出し、課題を解決する力を身に付けている。 ○自身の実践について論理的に表現することができる。 ○食生活に関わる情報を適切に判断する力を身につける。 ○様々な人と協働できる。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
3	8	11 章これからの生活を創造する 1 生活をデザインする	○生活課題に対応する意思決定の重要性	○生活を工夫し創造し、実践しようとしている。		○ ○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	総合	年次	1	コース	共通
科目名	ICT 探究	履修区分	必修	単位数	1
教科書（出版社）	なし				
副教材（出版社）	なし				
教科の目標	総合的で教科横断的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、それぞれの課題をよりよく解決していくための資質・能力を育成する。				
科目の目標	これからの社会を生き抜いていくために必要となる ICT 活用能力を高め、キャリアアップと連携しながらそれぞれの課題をよりよく解決していくための資質・能力を育成する。				

1 学習の進め方と留意点

幸せな大人として生きていくためには、急速に変化する時代に対応できる力を身に付けることが必要です。
 今ある職業が 20 年後、30 年後にもあるとは限りませんし、機械や AI でもできる仕事には、それらよりも安い賃金しか支払われなくなるでしょう。大切なのは、ICT 機器を活用できる技能そのものだけではなく、それらを用いて自分の考えをどう表現するかということや、課題の解決にどのように生かしていくかという態度です。
【考】自分の強みを育てそれを社会で生かしていく方法を考える。**【拓】**人生を通じて粘り強く道を切り拓くために進化し続ける。**【愛】**他者との協働を通じて愛し愛される人になり、ともによりよい社会を作っていく。以上のように、校訓「考拓愛」に込められた思いを、自らのものにするための科目です。主体的、積極的な取り組みを期待します。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	- ICT 活用に必要な基礎的な知識を理解している。 - ICT 活用の基本的な技能を身に付けている。	- 論理的な思考に基づき、解決方法を正しく判断できる。 - ICT を用いて自らの考えを的確に表現できる。	- 課題の解決に向けて粘り強く取り組もうとする。 - 自らの取り組みを振り返り改善していこうとする。
評価資料	- 活動状況の観察 - ワークシート等の記述内容 - 課題等の記述内容 - 確認テスト等の点数	- 活動状況の観察 - ワークシート等の記述内容 - 課題等の記述内容 - 確認テスト等の点数	- 活動状況の観察 - ワークシート等の記述内容 - 課題等の提出状況 - 振り返りシートの記述内容
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	2	・ BYOD 端末の基本操作	- ルールとモラルの確認 - BYOD 端末の基本操作の習得 - 安心安全メールの設定 - 行事等の振り返りとポートフォリオ記録（スタディサプリの活用）	○ ○ ○	○	○ ○ ○
5	3	- 学習支援ソフトウェアの基本操作 1 - 学び直しや発展的学習	- Google Workspace の基本操作の習得（Classroom・ドキュメント・スプレッドシート・スライド） - 行事等の振り返りとポートフォリオ記録 - 個々の能力や進路希望に合わせた学習	○ ○	○ ○	○ ○ ○
6	4	- 学習支援ソフトウェアの基本操作 2 - 学び直しや発展的学習	- スタディサプリの基本操作の習得 - 行事等の振り返りとポートフォリオ記録 - 個々の能力や進路希望に合わせた学習	○	○ ○	○ ○ ○

7	3	・学習支援ソフトウェアの応用操作1 ・学び直しや発展的学習	・ドキュメントの応用操作の習得 ・行事等の振り返りとポートフォリオ記録 ・個々の能力や進路希望に合わせた学習	○	○ ○ ○	○ ○ ○
8	2					
9	3	・学習支援ソフトウェアの応用操作2 ・学び直しや発展的学習	・スプレッドシートの応用操作の習得 ・行事等の振り返りとポートフォリオ記録 ・個々の能力や進路希望に合わせた学習	○	○ ○ ○	○ ○ ○
10	4					
11	4	・学習支援ソフトウェアの応用操作3 ・学び直しや発展的学習	・スライドの応用操作の習得 ・行事等の振り返りとポートフォリオ記録 ・個々の能力や進路希望に合わせた学習	○	○ ○ ○	○ ○ ○
12	3					
1	2	・課題探究 ・学び直しや発展的学習	・探究課題の設定 ・行事等の振り返りとポートフォリオ記録		○ ○	○ ○
2	3	・1年間のまとめ ・学び直しや発展的学習	・年間の学習活動のまとめ ・セルフプレゼンテーションの準備 ・行事等の振り返りとポートフォリオ記録		○ ○ ○	○ ○ ○
3	2	・学習成果発表 (セルフプレゼンテーション)	・年間の学習活動の報告		○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	総合	年次	1	コース	共通
科目名	キャリアアップ	履修区分	必修	単位数	1
教科書（出版社）	なし				
副教材（出版社）	なし				
教科の目標	総合的で教科横断的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、それぞれの課題をよりよく解決していくための資質・能力を育成する。				
科目の目標	キャリア学習を通じて、自己の在り方生き方を考えながら、それぞれの課題をよりよく解決していくための資質・能力をつぎのとおり育成する。 (1)自己の能力・適性を理解し、その向上にむけて努力する。 (2)職業や社会についての理解を深め、自らの人生を主体的に切り拓く力の基礎を身に付ける。 (3)他者との協働を通じて、よりよい社会を実現しようとする態度を育む。				

1 学習の進め方と留意点

幸せな大人として生きていくためには、急速に変化する時代に対応できる力を身に付けることが必要です。
 今ある職業が 20 年後、30 年後にもあるとは限りませんし、機械や AI でもできる仕事には、それらよりも安い賃金しか支払われなくなるでしょう。
 自分の強みを育てそれを社会で生かしていく方法を考える。人生を通じて粘り強く道を切り拓くために進化し続ける。他者との協働を通じて愛し愛される人になり、ともによりよい社会を作っていく。校訓「考拓愛」に込められた思いを、自らのものにするための科目です。主体的、積極的な取り組みを期待します。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・キャリア学習に関する知識及び技能を身に付け、その意義や価値を理解しているか。 ・自己の能力・適性について理解し、その向上に向けて努力できたか。	・キャリア学習を実社会や自己の在り方と関連づけることから、各自の課題を見つけ、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるか。	・キャリア学習に関して、主体的・協働的に取り組むとともに、他者と協調しながら、よりよい社会を実現しようとする態度を持つことができたか。
評価資料	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・課題等の提出状況 ・振り返りシートの記述内容
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	2	「高校で頑張りたいこと」 SDGs カードゲーム コミュニケーション WS【ちきゅうり】 ポートフォリオ (PF)「宿泊研修」 手帳・ポートフォリオの指導 職業を知る GW【ライセンス】 PF「4 月の振り返り」	3 学年の進路活動時をイメージして目標を定める。(宿研内) SDGs の考え方を体感する。 自己理解に役立てる。 宿泊研修の振り返り。 カワセミの目 (メタ認知能力) の育成。 世の中にある職業についての視野を広げる (リ) 入学からの諸活動の振り返り	○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○
5	5	基礎力診断テスト【ベネッセ】 PF「中間考査に向けて」 デジタルドリル さくら組 進路に関する学習会	GTZ (学習到達ゾーン) の把握 中間考査に向けた目標設定 次回基礎力診断テストへの練習問題に取り組む。GTZ アップを目指す。通年指導。 スタンプを活用した学力養成プログラム。積極的な参加を促す。 通年指導。 進路希望に応じて、進路情報や職業人講話等に参加する。 通年指導。	○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○ ○

6	2	PF「中間考査を終えて」 進路目標について 第1回進路希望調査 PF「学校祭に向けて」	目標は達成できたか。 適性、GTZ、考査、説明会等を経て、自分の進路について考える。 進路について考えると同時に自分が高校生活で頑張った（アピールできる）ことについても考える機会にする。 学校祭に向けた目標設定		○ ○	○ ○ ○ ○
7	3	進路ガイダンス【キッズコーポ】 PF「学校祭を終えて」 PF「夏休みの目標」 夏期講習	様々な上級学校について知る。 目標は達成できたか。 夏休みに向けた目標設定 さくら組と連携。10月模試に向けた学習計画のサポート	○	○ ○ ○	○ ○ ○
8	1	PF「夏休みを終えて」 PF「期末考査に向けて」	目標は達成できたか。 期末考査に向けた目標設定		○ ○	○ ○
9	7	PF「期末考査を終えて」 地元上級学校ツアー PF「前期を終えて」	目標は達成できたか。 地元の上級学校（帯畜大、大谷短大、看護学校、コア専、技専、帯調等）のいくつかをバスで回り、高校卒業後の学びに関するイメージを持つ。 入学時に定めた目標の到達度は？目標の修正は？	○	○ ○	○ ○ ○
10	3	実力診断テスト【ベネッセ】 進路目標について	一般クラス希望者全員受験 GTZの把握 ここまでの活動をもとに、自分の進路について考える	○ ○	○ ○	○ ○
11	3	第2回進路希望調査 PF「中間考査に向けて」	進路について考えると同時に自分が高校生活で頑張った（アピールできる）ことについても考える機会にする。 中間考査に向けた目標設定		○ ○	○ ○
12	2	PF「中間考査を終えて」 セルフプレゼン準備 PF「冬休みの目標」 冬期講習	目標は達成できたか。 冬休みに向けた目標設定 さくら組と連携。2年6月模試に向けた学習計画のサポート		○ ○ ○	○ ○ ○
1	2	PF「冬休みを終えて」 基礎力診断テスト【ベネッセ】 セルフプレゼン準備・本番	目標は達成できたか。 GTZ（学習到達ゾーン）の把握 1年間の学びのまとめ（目標への到達度、計画の再構築等）を保護者、担任にプレゼンテーションする。		○	○ ○
2	1	PF「期末考査に向けて」 PF「期末考査を終えて」	期末考査に向けた目標設定 目標は達成できたか。		○ ○	○ ○
3	4	お仕事体験 FAIR【ライセンス】 卒業生講話 PF「1年を振り返って」	体験を通して進路目標に関する意識を高める。 先輩の体験談を自己の進路に生かす。	○ ○	○ ○	○ ○ ○